

# 特別活動学習指導研究委員会

## 一 研究テーマ

思いを実現し、豊かな学級や学校の生活をつくる学級活動の実践

## 二 テーマ設定の理由

学級活動は、学校生活において最も身近で基礎的な所属集団である「学級」を基盤とした活動です。様々な集団活動を通して、学級や学校生活の中から集団や個人の課題を見だし解決するための方法や内容をみんなで話し合い、集団として「合意形成」を図り協力して実践したり、一人一人が自己の課題の解決方法について「意思決定」し実践したりして、よりよい生活や人間関係を築き、学校生活の充実と向上を図ります。

このような、特質を踏まえた学級活動の実践を行います。

○特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践のための視点

### 主体的な学び

学校や学級の実態、自己の現状に即して自ら課題を見だし、解決方法を実践したり振り返ったりしながら、生活をよりよくしようとしていくこと。

### 対話的な学び

生活上の課題を解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする話し合いの中で様々な意見に触れ、考えを広げたり多面的・多角的に考えたりすること。

### 深い学び

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら、問題の発見、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を繰り返す中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的に生かし、知識・技能などを集団及び自己の問題の解決に活用していくこと。

## 三 研究の経過

(1)	5月 2日	教育会館	総委員会、委員顔合わせ、年間活動の見通し等
(2)	6月 4日	中塩田小学校	今年度の活動について、実践事例について等
(3)	6月24日	本原小学校	教育課程研究協議会事前授業参観
(4)	7月30日	中塩田小学校	実践事例検証①、教育課程午後の部について①
(5)	8月27日	中塩田小学校	実践事例検証②、教育課程午後の部について②
(6)	9月 4日	本原小学校	教育課程研究協議会への参加、午後の部運営
(7)	11月25日	教育会館	総委員会、研究のまとめ、今年度の反省等

## 四 研究の内容

### 1. 学級会の実践に学ぶ

#### 事例Ⅰ

## 『はじめての学級会』

上田市立傍陽小学校

### (1) はじめに

現在、1年生7名を担任。7名のうち6名は一緒に保育園から入学してきているので、すでに人間関係ができあがっている。そのため、遊びを決めたり順番を決めたりするときには「〇〇ちゃんと言っているから……」「〇〇ちゃんに反対すると……」「別にわたしどっちでもいいし……」などの声が聞こえてくる。昨年度まで担任していた高学年のクラス(14名)でも、話し合いをしてみんなで考えたくても、同じ反応が最初に返ってくることが多くあった。また、7名しかいないため、個別での対応が可能であり、「集団」という意識が育ちにくいと感じた。

そこで、1年生のうちから集団としての目標やそのための方法・手段を決め、みんなですべてを実現できるようにしたいと考え、学級会をひらくことを子どもたちに提案した。

### (2) 内容

## ～1がっきがんばったねの会をしよう～

#### ① 机の配置

学級会では、みんなの顔が見えるように、向かい合わせの配置にすることを伝えた。

2回目からは「学級会」とわかると、子どもたちで席を移動することができ、話し合いをこれからするという意識をもつことができた。



#### ② 話し合うことの確認

みんなで何をしたいかを決める。

その際に、

「みんなが楽しめること」

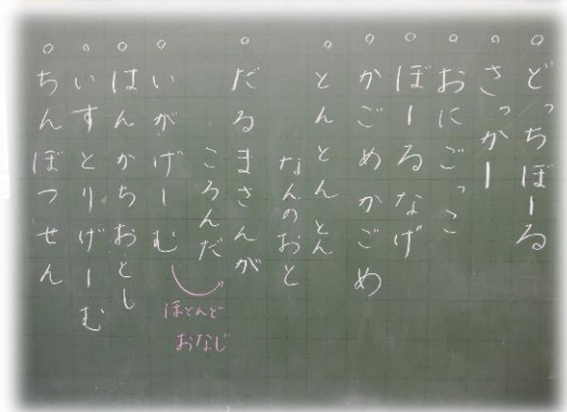
「使える時間は1時間」

「使える場所は教室、暑くなければ体育館も使える」

「意見を言うときは理由もつけて話す」

ことを伝えた。

また、質問はやりたいことが全部出たあとに行うことにした。



### ③ 話し合い

#### 第1時「どれができそうかな？」

「サッカー」は、外じゃないとできないと思う。  
「ハンカチ落とし」とか「イス取りゲーム」なら教室でできるからいいと思う。



「サッカー」「おにごっこ」がやりたい！



サッカーできない人（私）がいます。みんなでのしめないと思います。あとさ、いっぱいやりたい！



「サッカー」とか「おにごっこ」はさ、ちがうとき（2学期のがんばったねの会）にやればいいと思うよ。あと、ぜんぶできなくても次のときにやればいいと思う。

#### 第2時「今回（1学期がんばったねの会）は何をやる？」

わずかな人数でも意見を言える児童と言えない児童がいることがわかった。第2時の話し合いでは、暑さのため体育館が使える状況ではなくなったので「教室でできる遊びは何か」を、まず隣の友だちと相談してから全体で考えるようにした。



### （3）成果と課題

#### 【成果】

- 話し合いのルールを理解することができた。
- 教師が補足したり詳しく話を聞きだしたりすることで、その子の想いの理解につながった。
- 自分の考えを通したい子が多いが、友だちの話を聞く中で折り合いをつけていくことができた。
- 「自分の考えを聞いてくれる」場があることに気づけた。

#### 【課題】

- 話し合いの場になると、何をどのように話していいかわからず聞いているだけの子がいたので、参加できるように工夫していく必要がある。
- 少ない人数で話をしているので、どの子の意見も通りがちで意見のぶつかりが少ないように感じる。中学生になって大きな集団になったときに、うまく折り合いをつけていけるのか課題。

## 事例Ⅱ

# 『みんなで、よりよいクラスをつくる学級会』

上田市立中塩田小学校

### (1) はじめに

昨年度、3年生を担当した。自身にとって、初めての3年生だ。

3年生が、子どもたちの力で主体的な学級会を行うためにどうしたらよいかを考え、取り組んできた1年間の歩みを紹介する。

### (2) 子どもたちの実態に見合った年間計画の作成

3年3組(昨年度)は、25名在籍しており、日ごろから学習に意欲的な子どもたちが多く、ペア学習やグループ学習による追究を好んだので、話し合い活動の素地は身についていた。

年度当初、子どもたちの興味や関心を下に、学級活動の年間35時間のうち、概ね20時間前後を学級会の時間にあてるような年間指導計画を作成した。

1学期	2学期	3学期
<ul style="list-style-type: none"><li>・1学期のめあてを考えよう</li><li>・1学期の係を考えよう</li><li>・学級活動コーナーをつくろう</li><li>・学級目標を決めよう</li><li>・学級のきまりを決めよう</li><li>・運動会ががんばったね会をしよう</li><li>・1学期をふりかえろう</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・2学期のめあてを考えよう</li><li>・2学期の係を考えよう</li><li>・係の取り組みを見直そう</li><li>・ポッチャ大会をしよう</li><li>・音楽会ががんばったね会をしよう</li><li>・ハロウィンパーティーをしよう</li><li>・クリスマスパーティーをしよう</li><li>・2学期をふりかえろう</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・3学期のめあてを考えよう</li><li>・3学期の係を考えよう</li><li>・冬季室内オリンピックをしよう</li><li>・学習発表会の出し物を決めよう</li><li>・6年生を送る会の出し物を決めよう</li><li>・3年生ががんばったね会をしよう</li><li>・1年間をふりかえろう</li></ul>

学級会は、子どもたちの「やりたい。」という思いが引き出せるような内容を大切にしたい。

### (3) 子どもたちの主体の学級会までのプロセス

「学級会」を行う上での話し合い活動の仕方が国語の教科書で示されるのは、ちょうど3年生である。そのため年度当初の話し合いは、担任による学級会の模範的なプロセスを示す必要がある。本学級では、【司会者】【板書】【掲示】を5人程度で行えるように、1学期の学級会の中で、それぞれの役割を示しながら、学級会の流れに慣れ親しむようにしていった。



○ 学級会の流れ（簡単に）

議題の確かめ

出し合う

くらべ合う

まとめる（決める）

話合いのまとめ

始め方の例

- ・はじめの言葉
- ・司会グループの紹介
- ・議題の確認
- ・提案理由やめあての確認

終わり方の例

- ・決まったことの発表
- ・話合いのふりかえり
- ・先生の話
- ・おわりの言葉

出し合う

- 一人一人の意見を発表し合う。
- 賛成意見や反対意見を述べるのではなく、様々な考えを認めながら発表し合う。

くらべ合う

- 出された意見を理解する。
- 比較し共通点や相違点を見つける。
- すぐに賛成や反対意見を述べ合うのではなく、合意形成を目指す話合いをする。

まとめる

- 合意形成における3つの視点
  - ① 互いの意見を理解し合う（相手の立場に立って共感的に理解する）
  - ② 何が違うのかを明確にする（理由を明確にして比較する）
  - ③ 見方を変える（視点を変えて比較する）

（3）成果と課題

【成果】

2学期になると、子どもたちは司会者グループを班で輪番制にし、できる限りたくさんの子が司会を行えるようにした。3学期の「3年生がんばったね会」では、行いたい遊びが一つに絞れなかったことから、「写真パズル係」と「思い出すごろく係」に分かれ、2グループ別々による話合い活動を主体的に行うことができた（1枚目の写真）。

【課題】

3年生の話合い活動で一番難しいのは、「折り合いのつけ方」だった。合意形成の例を示しつつもなかなか思うようにいかなかったため、本学級では、話合いが気持ちよく終了できるよう、最後は拍手で終わるようにした（2枚目の写真）。



# 事例Ⅲ

## 『誰もが安心して臨める「学級会」をつくる』

上田市立川辺小学校

### (1) はじめに

現在担任している6年生のクラスでは、私が担任となった昨年度から、学級会にチャレンジし始めた。昨年度は、全部で12回の学級会を開いたが、最初は戸惑っていた子どもたちも、自分の考えをみんなに聞いてもらえたり、自分の考えがみんなに認められたりする経験を積み、回数を重ねるごとに「早く次の学級会をやりたい!」と話してくれるまでになった。主体的に学級の課題を見つけて友と対話し、解決に向けて合意形成していく経験は、児童の学級への所属感や自己有用感を高めており、安心して生活することができる学級づくりにつながっているように思う。

しかしながら、その反面、「学級会は好きだけれど、司会は緊張する。」「どう進めていったらいいかわからなくなってしまうから、司会役が怖い。」と、輪番制で回している司会進行役に不安を感じている児童もいる。そこで、児童が安心して学級会の司会進行に取り組むことができるようにするための手立てとして、「学級会進行チャート」を作成し、実際に司会役の児童がそれを使用して学級会を行ってきた実践について紹介する。

### (2) 内容

作成にあたって、国立教育政策研究所教育課程研究センター『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』を参考にした。

### 学級会進行チャート ～みんなでよりよい話し合いをしよう!～

意見が十分に集まった!

➔

十分に意見が集まったら  
意見を比べあおう!

➔

議論が十分に  
つくされた!

➔

みんなが納得する決め方を  
提案しよう!

意見をどのように集めるか、計画班で話し合っておこう!

↓

意見がなかなか集まらない

時間をとって考えてみよう?  
班ごと?ペア?個人?  
出ている中で決める?

**比べるべきの手立て**

- 名前マグネットで考えを**見える化する**。  
→意見のカタマリが見えやすくなり、話し合いがスムーズになります。
- 数を**見える化する**。  
→「一度意見のカタマリを見える化するために手を挙げてもらいます。」のようにして、数のカタマリを把握すると、話し合いの参考になります。
- 意見が出されなければ、必要に応じて**指名する**。  
→仲の良い人に指名するのではなく、いろんな考えを聞くための指名にしましょう。パスもあわせてあげると当てられた人が嫌な気持ちになりません。
- 出てきた意見を整理**してあげる。  
→「いま、〇〇のような意見が挙がっていますが、それに対して意見はありますか?」「〇〇の考えが多いですが、反対意見はありますか?」「反対意見がなければ、〇〇は決定したいと思うのですが、いいですか?」「〇〇は◆◆でさわわしくないという意見が出ましたが、それについて意見は…」のように、考えることをしほってあげると意見が出しやすいです。
- 明らかにずれている意見や、話し合いからずれている意見は**止める**。  
→「それは、〇〇なので違います。」「いま、話している内容とずれているので、その意見は取り上げられません。」のように、進行の判断で止めてよい。
- 選択肢を減らしていく**。  
→見える化した意見の中で、賛成者〇人の意見は消して構いません。しほりましょう。
- 少数派を納得する方向**にもっていく。  
→最終的には、少数派を納得させて多数派に巻き込むのが望めます。少数派を納得させる方向に議論を進めていくとやりやすいです。

**意見のまとめ方 妥協点を探ろう!**  
ポイントは、**みんなで痛み分け!**

- ◆**単品法**  
→1つの考えにしぼる。(ただし、他のものを選びたいと思っている人もいることに注意!)
- ◆**いろいろセット法**  
→いくつかの考えを縮小し、合体させて、一つにする。
- ◆**よくばりワンプレート法**  
→いくつかの考えを縮小して、全部やる。
- ◆**メインディッシュとサブのセット法**  
→メイン1つとサブを決める。
- ◆**トッピング法**  
→メイン一つに、アイデアを付け加えてよりよいものにする。
- ◆**コース料理法**  
→いくつかの考えを順番にやる。
- ◆**買ったものを持ち帰り法**  
→メイン以外のものは、休み時間や次の機会にやる。

**どうしてもまとまらなさそうなときは…**

- ◆**多数決で決める**。  
→その場合、見える状態で挙手にするか、顔を伏せて挙手するかを考える。
- ◆**ポイント制で決める**。  
→1位、2位、3位でみんなに投票してもらい、1位には3点、2位には2点、3位には1点を配点して、その合計が多いものに決める方法。多数決よりも、少数意見を大事にできるが、手間がかかる。
- ◆**くじ引きやじゃんけんなど運に任せる**。  
→「どれも魅力的で、何にも決めがたい。この中ならば、どれでも良い。」となったら、運に任せるのもあり。
- ◆**他のだれかに最終決定をたくす**。  
→例えば、誰かの歓迎会などで、みんなで3つまでに決めておいて、その人にやりたいもの一つ決めてもらうという方法もある。
- ◆**次回学級会に先延ばしして話し合う**。  
→どうしても話し合いが盛り上がり時間が決まらなさそうな場合は、次回に先延ばしするのもあり。

何より大事なことは、**みんなが話し合いに参加できて、それぞれが自由に意見を言えること**です。

**みんなの意見を大事にした話し合いにしよう!**

**意見の集め方**

- ◆**挙手制で挙げてもらう**。  
→みんなの意見を聞けるか?
- ◆**一人ひとり全員に発表してもらう**。  
→時間は足りるか?
- ◆**グループごとに意見をまとめてもらい、代表者に発表してもらう**。  
→話し合いの時間が取れるか?
- ◆**事前に意見を集めておき提示する。(おススメ)**  
→事前の準備はできているか?

★学級会の時間が足りなさそうなときは、**事前に意見を集めておくのも一つの手**です(ただし、条件やめあてはあらかじめ伝えておくこと)。その場合、計画班は、朝の会や帰りの会であらかじめタブレット(フォームやシャムボード等)や紙に記入してもらう形で意見を集めておきましょう(その場合は、学級会コーナー等に事前に提示しておくも可能です)。

**議論がつくされた状態とは…?**

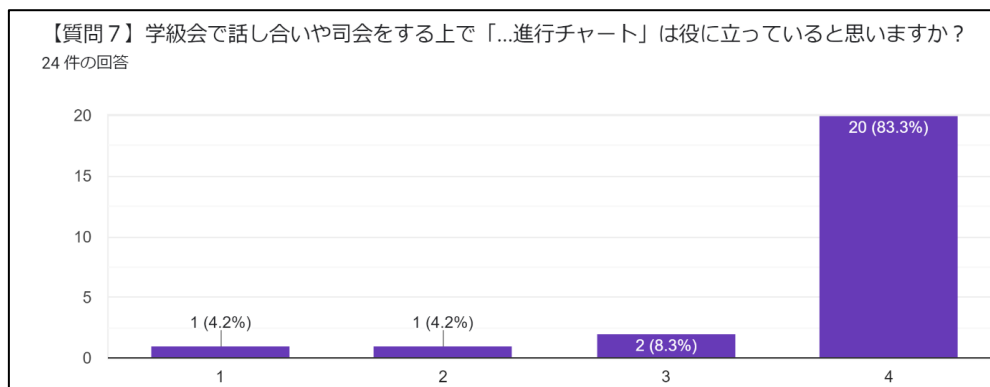
その場に参加している全員が全ての意見を出し、意思決定に必要な情報も十分に捕い、それに対して全員が納得いく議論ができ、これ以上話すことはない、と**全員が思えたとき**。

★**ただし!**「みんなで一つの答えに決める」ことが目的なので、ある程度の状態で**決める段階**にもっていかねばならない。議論だけして、いつまでも決まらないのは無益。誰かを説得する、納得させるとは、「まあ、それでもいいわ!」と妥協(できよう)させること。いつまでも折れない人も、折れない人には、「なぜ納得できないのか」を聞いてもいい。どうにか**みんなが妥協点(できよう)**を探る話し合いをしよう!

学級会オリエンテーションでは、学級の児童全員に配付し、学級会の進行の仕方を確認した。また、司会進行役の児童が、このチャートを見ながら計画を立てたり、当日の司会進行を行ったりすることができるように、日直の進行表と同様に、クリアファイルに入れていつでも参照できるように設置してある。さらに、児童が読んで分からないところや進行上困ってしまったところに、これまでに2度の大きな修正を加えた。現在のものは Ver. 3.0 である。学級会の途中でも慌てず全体を見渡せるよう、A3 の 1 枚で作成した。

### (3) 成果と課題

進行チャートについて児童に簡単なアンケートを実施した。



#### 【主な意見】

- 進行の仕方に迷って、詰まったときに使えるから。
- 司会進行をしている人とかもよく見ているし、「これどうすればいいんだろう？」というときに取説みたいに役に立つのでいいと思う。
- 話し合いの流れが分かってよい。司会の人以外も、司会の気持ちになれる。
- できればあってほしい。司会を助けてくれる。
- 困った時先生を頼りにするのではなく、学級会進行チャートがあると自分の力で頑張ってみようと思える。やる気も出る。
- ▲チャートを見ながらやることを忘れていた。自分で考えて進められるから。

#### 【成果】

多くの児童が、「学級会進行チャート」が役に立っていると思っており、それがあつて安心して学級会に臨むことができると感じている。少しでも学級会に対するネガティブな気持ちが和らいでいたら嬉しい。

進行役のみならず、その他の児童にとつても、手掛かりとなっていることが分かつた。

#### 【課題】

あくまでも、私が考えて作つたものなので、内容や言葉選び等、これが本当に学級会の進行の手掛かりとしてふさわしいか、実践の積み重ねが必要。修正を繰り返しつつ、より適切なもの、より使いやすいものにしていく必要がある。

文字数が多く、読むことが苦手な子にとっては、使いにくいものである。また、高学年向けの内容になっており、低学年にはどうしても使いにくいものである。紙幅の問題を乗り越えて、どうかして平易にしつつ、図示できないかも検討している。

## 2. 児童会活動・生徒会活動の実践に学ぶ

### 事例Ⅰ

## 『全校みんなで考え，実践する児童集会』

上田市立東小学校

### (1) はじめに

昨年度まで，感染症拡大防止のため，学年をまたいだ活動に制限があった。児童集会はできず，各委員会でどのような活動をしていたか，また全校はその活動を通して何ができるようになったかがぼんやりとしていた。

今年度は，掲示物や写真を通した活動の視覚化や，お昼の放送で児童会三役からのフィードバックをすることで，全校で「今どのような活動をしているか」「私たちは何ができるようになったか」「全校でどのようなことを大切にしていけるか」を意識して一体感を持つことができるようにしていく。中でも今年度は「清掃」に重点を置いて進めていく。

さらに，本校のランドデザインにもある「一中区学校園の縦のつながりを深める」を具体化するため「他校との児童会の交流」を考えた。縦のつながりと横のつながりを厚くするため，お互いの姿を見合い，何か一つでも共通認識ができるものをもって中学校へ進学してほしい。

### (2) 活動の年間計画

1 学期	2 学期	3 学期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・E～ね東小をたくさんみつけよう</li> <li>・各委員会でイベントの計画をたてよう</li> <li>・児童総会にむけ議案書をつくろう</li> <li>・自分たちの清掃を振り返ってみよう（児童集会）</li> <li>・1学期の振り返りをしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の目標を持とう</li> <li>・前期児童会終了</li> <li>・後期児童会開始</li> <li>・児童会祭り（朝風祭）の計画をたてよう</li> <li>・清掃のめあてをどのくらい実践できているか，ほかの学校はどのようなとりくみをしているのか知ろう。</li> <li>・朝風祭を成功させよう</li> <li>・2学期の振り返りをしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3学期の目標を持とう</li> <li>・引継ぎの準備をしよう</li> <li>・自分たちの進学する中学校はどのような清掃をしているのかを知ろう。</li> <li>・児童総会</li> </ul>



### (3) 成果と課題

#### 【成果】

全校で意見を交流し合うことを通して一人ひとりが目標を持つことができた。全校で「長野県1位の掃除を目指す。」という大きな目標を達成するための見通しを持つことができた。課題を共通認識するいい機会となった。

#### 【課題】

初めての児童集会ということもあり、自分の意見を言葉にできない児童が大多数だった。子どもたちの中で、比較対象もなく「どのような清掃が長野県1位なのか?」「なぜ無言清掃をしなければならないのか。」と疑問に思う子が大多数だった。清掃をなぜ一生懸命やるのか、なぜ無言清掃を大切にしているのかをもっと全校で意見を出し合える場面が設定できるとよかったと感じた。

#### \*児童集会のようす



① 課題提起  
(出し合う)



② 意見交換・関わり  
(比べ合う)



③ 目指す姿の共有  
(まとめる)

## 事例Ⅱ

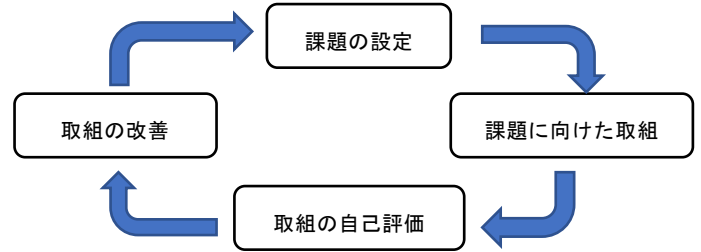
# 『自分で考え行動したり，調整したりする力を育成するため』

上田市立第一中学校

### (1) はじめに

令和4年度より毎朝の10分間を「一中タイム」と題して，生徒一人ひとりが自分と向き合い，自分でどんな時間にするのか，自分なりに計画を立てて，その計画に沿って一人で行う時間を設けている。令和5年度は教科学習や定期テストともつなげる「一中タイム」の在り方を考え，生徒が自分の学びを振り返り，調整しながら自分の伸びを実感できる時間となるように取り組んだ。

その中から「一中タイム」だけでなく日々の授業や生徒会活動など，教師が指示を出すのではなくあらゆる教育活動を徐々に生徒に委ねていくこと。さらに，子どもが主体的に，将来を見据えて計画・実行できる自己調整力の育成を目指すには「今の私」からの視点で「学びのPDCAサイクル」を回させるのではなく，「こうありたい私」からの視点も必要だということが見えてきた。そこで「一中タイム」を取り組んできた令和5年度生徒会の活動を簡単にまとめてみる。



### (2) 内容 ～スローガン・活動の軸・年間計画・引継ぎまで～

#### スローガン

一学期（前期） 糸 ～「自ら」向き合い 「自ら」考え 「自ら」行動する生徒会～  
二学期（後期） 糸 ～「共に」向き合い 「共に」考え 「共に」行動する生徒会～  
《スローガンに込められた願い》

**メインタイトル** なぜ『糸』にしたのか？→『糸』というのは細かい繊維，一つ一つを撚り合わせてできるもの。そして私達は，「一人一人の力が集まり，みんなで築き上げていく生徒会」を目指している。この個々が集まって一つのもので完成するという点が『糸』と私達が目指す生徒会に共通しているため。

この『糸』を私達が最終的に目指す姿とする。そのためには段階を踏んでいかなければならない。

**サブタイトル** みんなで「共に」生徒会を築き上げていくためには，一人ひとりの力が必要。

→一学期は，自分自身の生徒会での在り方や生徒会への関心を高める学期。

一つ一つの繊維がしっかりしていないと一本の糸にはならないように一人一人の力がしっかりしていないと生徒会はみんなと共には築けない。そのため，一学期のサブタイトルは「自ら」をメインに進めていく。

→全校生徒の主体性を上げられるような活動をしていく

二学期からは，一学期で出来上がった一人一人の力を撚り合わせ，糸の形にしていく。そこで更に強固な糸にするために生徒会企画などでさらに「撚り」をかけていく。そして全校と共に一致団結して色々なことに取り組む。二学期からのサブタイトルは「共に」をメインに進めていく。

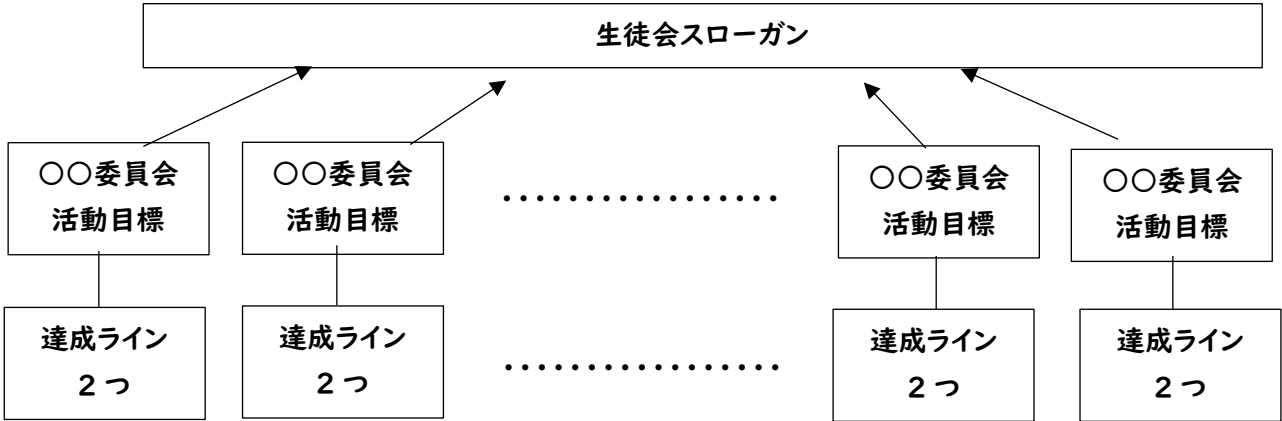
「自ら」「共に」の意識を持たせるために重要なのは目標。そこで生徒会スローガンという大きな目標の下に各委員会で目標を掲げる。

「一中 SDGs」

・目的 目標を達成するごとに、「達成感」や「充実感」が味わえ、全校生徒の笑顔につながると同時に、生徒会活動への参加意欲向上を図る。

・活動内容 今ある 12 個の委員会に、1 つずつ活動目標を定める。それに加えて、達成ラインを設け、全校で目標の達成に向けて活動していく。

【全体像】



年間特別活動計画（記録）・委員会ごとフォルダ整理

D4	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2	本部	生徒会ラジカセ 生徒会広まり			委員会			協議会		
3	校務課(ホーム)									
4	振起	一年生応援企画			委員会活動					委員会活動
5	構成	運動部へ響ける 応援メッセージ			イラストコンテスト			文化祭へ響ける 応援メッセージ		
6	歓迎(1)	chromebook			リクエスト曲			協議ラジカセ(文化祭準備インタビュー)		リクエスト曲 chromebook
7	学芸	一年生応援企画			協議準備委員会 協議会					文化祭コース プロジェクト
8	同窓	卒業生応援			協会の応援情報 部活動情報			協会の応援情報		各学年部活動 情報
9	体育(記録)	卒業生応援			校務課活動			二二運動会		体育施設開放 情報



それぞれの活動の中で生徒たちの意識の中心にあったもの。

- ① chromebook を最大限活用していくということ (chromebook 導入3年目)。
- ② 常に執行委員が生徒会の活動を共有していくこと (調整をスムーズに)。
- ③ 生徒会を自分たちが引き継いだときに感じた不安を減らすということ (持続可能)。

こういった意識は、「一中タイム」を通して理解し、必要性を感じた「PDCA サイクル」を実践していく中で、学習以外でも「こうありたい」姿に近づけると生徒自身が実感してきているからではないだろうか。

(3) 成果と課題

「一中タイム」については、今後も継続する予定だが、生徒だけではなく、職員にも価値づけをしていくことが形骸化させないためにも重要になる。

生徒会活動のみではなく、「自分で考え行動したり、調整したりする力」がどのようにつながっているのか「見える」ようになると必要感へとつながる。

## 五 研究のまとめと課題

今年度の教育課程研究協議会では、上田市立本原小学校の実践から、高学年における学級会のもち方や進め方などの模範的な授業像、児童の思いや考えを大切にした主体的な学びの姿を参観させていただくことができました。

また、午後の研究協議会においては、本委員会のテーマである「思いを実現し、豊かな学級や学校の生活をつくる学級活動の実践」について実践事例を発表したり、各校における特別活動の工夫や悩みを討議したりしました。

### ○学習指導研究委員による実践発表（2名）

### ○「学級会を開こう」視聴と年間指導計画作成のお願い

### ○特別活動の取り組みについての情報交流

参観されている先生方には、各校における特別活動の工夫や悩みを意見交流していただく時間を設け、充実した話し合いを行うことができました。

また、各委員による実践事例を持ち寄り発表し合ったことや教育課程にご参加された先生方に意見交流をしてもらったこと等、互いの学びを深め、日々の授業に結びつく研究となりました。

年に数回実施した定期委員会においては、委員自身の研鑽につながると同時に、各校にそれぞれの事例を持ち帰ることで、特別活動の取組について各校においても理解を深めてもらう場となりました。

次年度も互いの実践事例から学び高め合える委員会活動を継続していきたいと考えています。